



## 園芸の「1億円産地づくり」の取組状況

県では、食の安全・安心に対する県民の関心の高まりから、顔の見える県産野菜等の生産拡大に対する期待に応えるため、平成22年度から「1億円産地づくり支援事業」を展開している（戦略策定JA：15JA、戦略品目：たまねぎ、にんじん、ばれいしょ等のべ22品目）。

平成30年度には、JAとなみ野の「たまねぎ」の販売額が約4億円、JAいなばのハトムギが約1.5億円、JA黒部のねぎが約8千万円となるなど、戦略品目全体で11.7億円に拡大している。

○取組みの成果 ※戦略品目の生産販売実績及び見込み ( ) は対前年増減

H30 作付面積 (ha)	H30 出荷量 (t)	H30 販売金額 (百万円)
755 (+145)	9,570 (+260)	1,165 (+39)

### 1 これまでの主な取組み

#### (1) 加速化計画の実施及び検討会等の開催支援

1億円産地づくりの取組みを加速化させるため、品目の見直しも含めた新5カ年計画を策定し、取組みを強化。また、産地づくりを着実に進めるため、研修会や検討会の開催を支援



排水対策指導者研修会  
(収穫研修会 H31.5.15)

#### (2) モデル経営体の育成

各産地においてモデル経営体を設け、機械化体系や単収向上技術を実証

#### (3) 機械・施設の整備

産地の拡大に伴う省力機械化にむけた収穫機や調製用機械等（キャベツ、さといも等）の導入を支援



たまねぎ生産拡大研修会  
(収穫研修会 R1.6.19)

#### (4) 広域産地化の推進

全農が主導する加工キャベツやにんじんの広域的な産地体制を強化するため、協議会の設立や実証ほの設置、機械化一貫体系の導入を支援。

優良事例であるJAとなみ野のたまねぎを広域産地形成品目に位置付け、県内に普及を図った。

**(5) 県産野菜の認知度向上と新たな販路開拓**

1億円産地づくり品目について、東京圏市場や量販店の要望に対応できる販促資材の作成やマーケティング調査など、新たな販路開拓を支援



首都圏での県産野菜 PR  
H31.2「富山のさかな おもてなしフェア」にて PR

**【ねぎたん】**

- ・鮮度保持効果とデザイン性の高い FG 包装や、実需者（生協）のニーズに基づいた特別サイズ（通常 40cm→宅配用ボックスに収まる 30cm）の導入
- ・店頭電子POPの作成等、知名度の向上に向けたPRの強化



ねぎたん  
(左から FG 袋詰め、宅配用、通常)

**【えだまめ】**

- ・H27 に開発した出荷箱による認知度向上と販売拡大
- ・保冷効果の高い出荷容器や保冷剤の検討・導入



黒を基調とした黒大豆えだまめの出荷箱

**2 今後の主な取組み**

R1. 10. 29 「園芸生産拡大大会」の開催

R2. 2 月 園芸振興推進協議会の開催：次年度計画の検討

**○野菜等生産に関するその他の特徴的な動き**

**(1) 次世代型施設園芸による大規模な野菜・花き生産**

「富山スマートアグリ次世代施設園芸拠点」では、地域資源エネルギー（廃棄物の焼却熱）とICTによる高度な環境制御技術を活用して、フルーツトマトやトルコギキョウ等の切花の大規模な周年生産に取り組んでいます。

＜栽培面積と出荷実績（H30）＞

	栽培面積	出荷実績
フルーツトマト	2.9ha	144t
トルコギキョウ等切花	1.2ha	31万本



**(2) とやまのカン（寒）カン（甘）野菜**

- ・県産冬野菜の生産振興や販路拡大を図るため、「とやまのカン（寒）・カン（甘）野菜プロジェクト」を実施しています。
- ・冬季の気象条件を活かし、寒さでよりおいしくなる寒締めほうれんそう、キャベツ、ニンジン、ハウス白ねぎなどが対象です。





# 県産品の活用状況

県では「新・とやま地産地消推進戦略」に基づき、県民ぐるみの地産地消運動を展開しており、直売所やインショップ、学校給食などで、地場産品の活用拡大を推進しています。

## 1 直売・インショップの販売実績

(平成 30 年度)

3,667 百万円 (前年度比 100.3%)

インショップを中心に増加

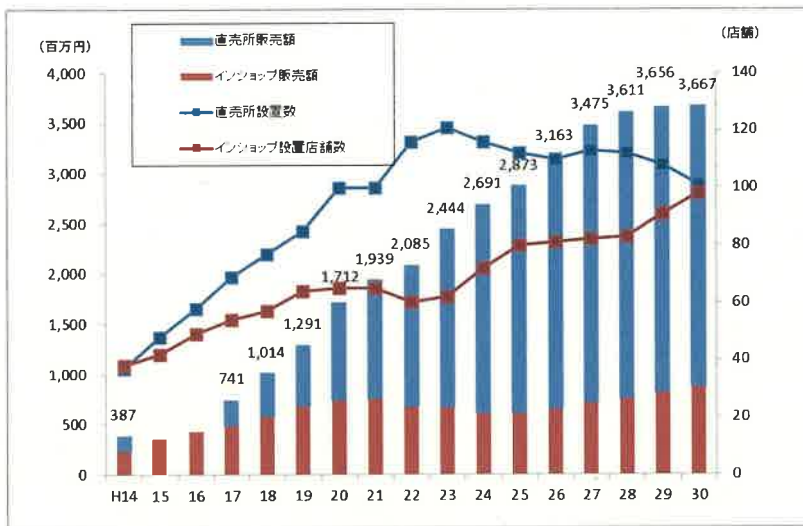
目標 (R3)  
3,200 百万円

<直売・インショップの推移>

[農林水産企画課調べ]

直売所：設置数・販売額ともに減少  
(108 箇所 (H29) → 101 箇所 (H30))  
(2,837 百万円 (H29) → 2,792 百万円 (H30))

インショップ：設置数・販売額ともに増加  
(91 箇所 (H29) → 98 箇所 (H30))  
(819 百万円 (H29) → 875 百万円 (H30))



## 2 学校給食の県産食材使用状況

(平成 30 年度)

[米飯給食] 週 3.7 回 [前年 3.7 回]

[野菜類] 活用量は 461 トン  
品目数は 115 品目

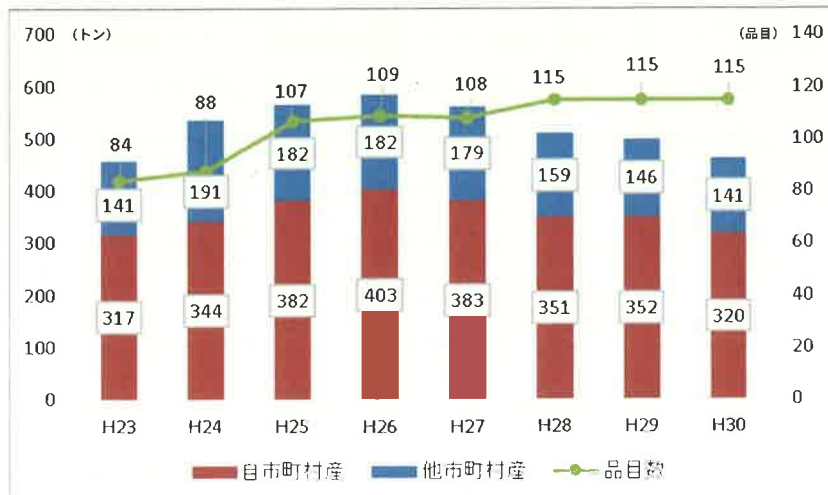
<学校給食における県産野菜等の活用>

[農林水産企画課調べ]

学校給食での主な使用食材

※ ( ) 内は、県産食材使用割合及び使用量

- ・たまねぎ: 372.1 トン ( 11.1%, 41.5 トン)
- ・じゃがいも: 303.7 トン ( 6.1%, 18.7 トン)
- ・キャベツ: 250.9 トン ( 27.0%, 67.8 トン)
- ・にんじん: 199.7 トン ( 20.8%, 41.6 トン)
- ・だいこん: 145.1 トン ( 46.8%, 68.0 トン)



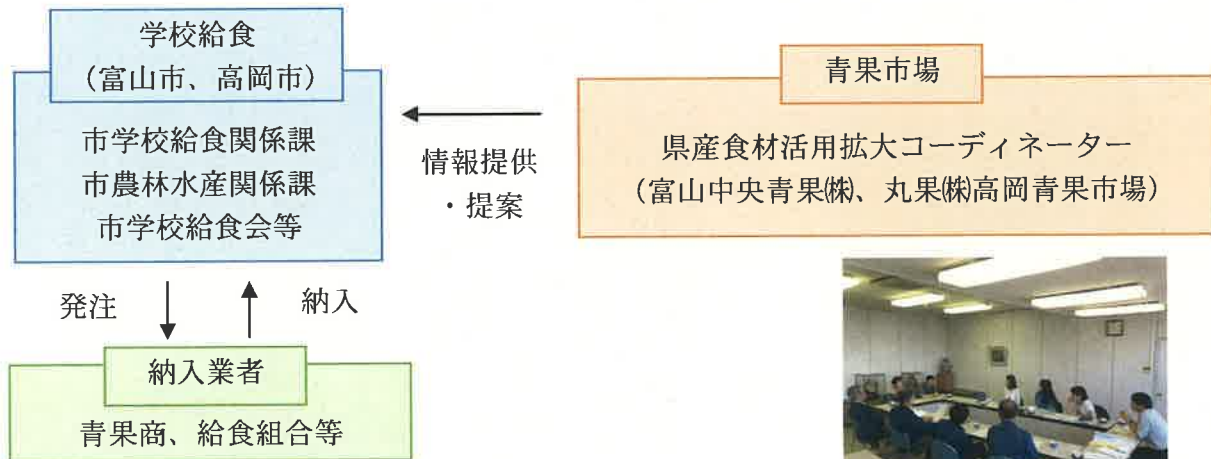
# 令和元年度 県産食材活用拡大コーディネーター事業について

## 1 ねらい

モデル市町村（富山市、高岡市）を設置し、青果市場のコーディネート力を活かし、学校給食における県産食材の活用拡大を図る。

## 2 情報共有体制の整備

青果市場、青果商、学校給食等の関係者による情報共有体制を整備し、青果市場から献立情報を踏まえた県産食材の情報提供や活用食材の提案



県産食材の情報提供・提案

## 3 主な取組内容と成果

### ① 献立情報を踏まえた県産食材の情報提供や活用食材の提案

- ・ 富山市、高岡市の1学期の県産食材（自市産＋他市町村産）の活用量は、約16t（54.6t（H30）→70.2t（R1））、約3割増加（H30比）
- ・ 園芸の1億円産地づくり品目であるJAとなみ野のたまねぎなどの新たな結びつきが生まれた。

### ② 食材の規格幅拡大に向けた学校給食調理員による野菜目合わせ会

- ・ きゅうり、にんじん、じゃがいも、たまねぎ、キャベツの目合わせ会を実施
- ・ 小さいものや曲がりのあるものであっても、小規模校や活用量が少ない日であれば活用可能との意見

### ③ 一次加工品ニーズ等調査

- ・ 富山市43名、高岡市36名の学校給食調理員を対象
- ・ カット野菜：かぼちゃ、さといも、ごぼう等
- ・ パースト状野菜：かぼちゃ、じゃがいも、だいこん等

### ④ 学校給食への県産食材の活用推進に向けた検討会

- ・ 開催日時：令和元年8月30日（金）
- ・ 範囲：青果市場、市町村農林水産・学校給食担当者、県学校給食会、県保健体育課、県農産食品課及び県農林水産企画課
- ・ 生産・出荷情報や運搬方法など他市町村産食材活用のための情報が不足、一次加工品や加工品があれば県産食材の活用につながる、といった意見



野菜目合わせ会

## 4 今後の課題

- 学校給食現場と他市町村の生産現場との連携強化
- 県内産地・学校給食情報の一元化と情報提供
- 一次加工品・加工品の開発や食材（規格外品）の調達に向けた課題整理



## 6次産業化の取組状況

県では、農林漁業者の6次産業化の取組みを促進するため、国の支援制度に加え、規模や発展段階に応じた取組みが図られるよう、県独自制度による支援を行っています。

### 1 国の支援制度の活用について

- (1) 6次産業化法による「総合化事業計画」の策定支援  
 <メリット>・制度資金の特例適用(据置期間延長)、  
 国補助事業の活用等

【認定件数(R元.7.31 現在)】  
**富山県 33件**  
 (全国:2,473件)  
 新潟県 41件、石川県 28件、  
 福井県 22件

- (2) 6次産業化プランナーの派遣(サポート活動)  
 ・商品開発やマーケティングの専門家等による相談活動

【支援状況(H30)】  
 ・派遣回数:58回  
 ・相談経営体数:18件

- (3) とやま6次産業化セミナーの開催  
 ・マーケティング等の専門家による座学・実習等の研修を実施

- (4) 「食料産業・6次産業化交付金」・「中山間所得向上支援」  
 ・新商品開発、販売拡大等のソフト活動や  
 加工施設・レストラン等のハード整備を支援

【整備事業の支援状況】  
 H23~H30:計16件



### 2 県の主な支援事業について

#### (1) 6次産業化とやまの魅力発信事業(H24~)

- 支援対象:農林漁業者(個人[認定農業者]又は団体等)
- 支援内容及び補助率

- ①一般事業:商品開発、販路開拓、機械整備等(補助率1/2、250万円以内)
- ②農福連携事業:障害者を雇用して行う①の事業(補助率1/2、300万円以内)
- ③農観連携事業:観光業者と連携した新商品の開発や体験農園の整備等  
 (補助率1/3(市町村1/6)、2年間で県200万円以内)

【支援状況】H30:6件採択  
 (H24~30:計50件)

#### <事業を活用して誕生した新商品(例)>



各種ジャム  
 (魚津市、H30)



ドライフルーツ  
 (滑川市、H30)  
 【農福連携】



ひとくち蜂蜜  
 (富山市、H27)



生姜ジュース  
 (砺波市、H29)  
 【農観連携】

## (2) 農村女性起業に対する支援

農村女性の農産加工品開発や販売などの活動を発展段階別に支援

### <農村女性起業の状況>

	H19	H30	H30/H19
農村女性起業数	146件	185件	127%
うち販売額1,000万円以上	26件	39件	150%
販売額	10.3億円	16.6億円	161%



### ① 農村女性スキルアップ講座

- ・受講対象者：女性起業組織のリーダーや起業活動を志す女性農業者等
- ・共通講座：マーケティング、起業理念
- ・専門コース：①保存技術、②メニュー開発、③商品化

【受講数】H30:19名 (H21~30:計188名受講修了)

### ② 農村女性起業チャレンジ事業

- ・地場農産物を活用した、商品開発を支援
- ・補助率：1/2 (標準事業費80万円)

【支援状況】

H30:4件 (H18~30:75件)

### ③ 農村女性起業拡大支援事業

- ・事業拡大のための加工機器の導入等を支援
- ・補助率：1/2 (標準事業費200万円)

【支援状況】

H30:3件 (H19~H30:46件)

### ④ 農村女性先進モデル企業育成事業

- ・「起業」から「企業」への発展を目指した商品構成の充実や販売促進活動を支援
- ・補助率：1/2 (標準事業費1年目200万円、2年目50万円)

【支援状況】H30:新規1件、継続1件採択 (H20~30:12)

### ⑤ 農村女性起業ネットワーク促進事業

- ・事業を活用した農村女性起業者をフォローアップし、ネットワークを促進するため、「農場・農園」を会場にした事業実施報告会や交流会を開催

【実施状況】H30:2箇所で開催

### <活動の様子/事業を活用して誕生した新商品や新たな取組み(例)>



農村女性スキルアップ講座の様子



富山干柿を使ったお菓子 (南砺市、H29) 【起業チャレンジ】



交流スペースを備えた直売所 (黒部市、H28) 【起業拡大支援】



味噌 (氷見市、H26~27) 【先進モデル企業育成】